琉球大学附属図書館報
びぶりお
http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/
April 2013
158
Vol.46 No.1
ISSN:0286-8229

巻頭言

新学期にあたって

琉球大学附属図書館長　伊　澤　雅　子

新しい学期が始まりました。大学全体が新たな気分でスタートしようと身震いしている時期です。1年次の皆さんは新しい学校、新しい生活、新しい勉強などなど…まだ何がなんだかわからない状態になっていると思います。県外から来た人は、ソメイヨシノの桜が咲くかわりに、あちこちで海開きが行なわれているのを見て「ああ亜熱帯に来たんだな」と実感されていると思います。

沖縄は生物多様性のホットスポットと言われています。これまで見たことのない生き物や自然現象に驚いて下さい。また、できればもう一ランクレベルアップして、“ないもの”にも気がついて下さい。これまで普通に見て来た風景から、「あれ？これがいない！」と気づくことができるようになったら、自然観察のプロです。「ではなぜ？」というのが次のステップです。野外にでて実際に調べて見なくてはわからないこともありますが、そうでなくても、長い間蓄積されて来た資料を解析することでわかるかもしれませんし、これまでに同じ疑問をもって研究をして来た人たちの成果に学ぶところもあると思います。そのような活動には図書館が絶好の場になります。

４年生の皆さんはいよいよ卒業研究ですね。卒業研究にあたっては図書館の資料は強力な助っ人になります。どんどん活用して下さい。大学院生の方たちは図書館のさまざまな機能を広く世界に広がる研究のツールの一つとして下さい。

図書館は今年もいろいろなイベントを計画しています。もちろん新しい本もたくさん入ります。図書館との関わり方も、単にお客さんとして本や展示を見たり、講習会や講演会で勉強をする受け身のものだけではありません。自分で図書館に置く本を選んだり（学生選書ツアー）、自分の好きな本をアピールしたり（ビブリオバトル）、詩や小説を書いて専門の先生方に評価してもらったり（琉球大学びぶりお文学賞）、ともう一歩踏み込んだ関わり方もチャレンジしてみませんか？

（いざわ　まさこ：理学部教授）

【目　次】

1 …… 巻頭言
2 ……「第6回びぶりお文学賞」を発表
3～6 …… 琉球大学びぶりお文学賞」の6年
7 …… 文芸ワークショップを開催
Library Lovers’ キャンペーンを開催
8 …… 貴重書展を開催
9 …… 新収蔵資料紹介
10～11 …… 図書館トピックス
（開館時間大幅延長のお知らせ（本館）、他）
12 …… お知らせ

第６回「琉球大学びぶりお文学賞」を発表

琉球大学びぶりお文学賞は、琉球大学が目標として掲げる「地域及び広く社会に貢献する人材」「意欲と自己表現を有する人材」育成の一環として、言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を進め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的に、琉球大学に在学する学生を対象に平成19年度に創設したものです。

6回目を迎えた今年度は、10月31日に応募が締め切られ、学部1年次から修士2年次まで学部を問わず、小説部門では13編、詩部門では30編の応募がありました。選考委員の厳正なる審査の結果、「びぶりお文学賞」は次のとおり決定しました。

小説部門

受賞作　『レインボー』**上間 美香**（法文学部国際言語文化学科４年次）

佳作　『歪んだかざぐるま』**知念 紘己**（法文学部総合社会システム学科２年次）
『マットの泉』**東恩納 るり**（法文学部国際言語文化学科４年次）

詩 部 門

受賞作　『プロテウス』**東恩納 るり**（法文学部国際言語文化学科４年次）

佳作　『かいわ』**こはぐら**（教育学研究科修士２年次）
『ティクターリクの夢』**添田 晴日**（理工学研究科修士２年次）
『雨』**長島 瑠**（教育学部学校教育教員養成課程４年次）
『チニカエレヨ』**蓬田 匡**（理学部海洋自然科学科３年次）

授賞式は、平成24年12月19日に附属図書館会議室で行われ、岩政輝男学長から受賞者に賞状と副賞が授与されました。また、佳作を含む受賞作品は、3月下旬にも作品集として冊子体にして発行され、図書館ホームページでもEBookとして公開予定です。

なお、次回（第7回）からは、応募資格を本学の学生と限定せず、沖縄県内の大学・高専等の学生へ拡大して実施する予定です。多くの若い方々のチャレンジを期待しています。

受賞の言葉

小説部門受賞『レインボー』　上間 美香

思えば、今回の作品は旅から生まれたものでした。二度目の挑戦でいただいた、待望のびぶりお文学賞。ハワイ留学で見たこと、触れたこと、感じたこと、色んな人と交わした言葉一つ一つが、気づかぬうちに私を成長させてくれていたのかもしれません。

特に、ハワイで見た「レインボー」は、鮮明に頭に焼き付いています。私はこれまで、作品の主人公同様、あんなに鮮やかで、くっきりとして、でもどこか優しげに、それぞれの色が調和するような虹を、見たことがありませんでした。あのとき心に抱いたものを、この作品を通じて伝えることができるのは、ここまで応援してくださった皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

これから、さらに多くのことを吸収し、自由自在に色を混ぜ合わせ、自分だけの色彩作りに励みたいと思っています。そして、次なるびぶりお挑戦者の鮮やかな色々に出会える日を、楽しみにしております。

受賞の言葉

詩部門受賞『プロテウス』　東恩納 るり

去年の正月、NHKのドキュメント番組で、海底洞窟とプロテウスのことを知りました。酸の海など、到底生きるのに適しているとは言えない海の中で、人知れずゆれる命。その時のイメージをノートに書きとめていました。今回、びぶりお文学賞に応募するぞという事で、詩を三編応募させていただきました。一つは昔書いたもの、一つは小説の冒頭に置いていたもの、そして最後の一つがそのときの感情を素直に即興で書いたもので、テーマやタイトルを決めかねていたとき、このプロテウスのことを思い出し、今の作品となりました。受賞の電話を頂いた時、まさかこれが、ととても驚いたのを覚えています。

去年は詩部門で佳作、今年は詩部門で受賞、小説部門で佳作とのことで、私の周りの全てに感謝しても足りないくらいです。これからも、このびぶりお文学賞を一つの到達点として、詩作や自分の小説の世界と真摯に向き合っていきたいと思います。

「琉球大学びぶりお文学賞」の６年

山里　勝己

「琉球大学びぶりお文学賞」が今年で６回目を迎え、第７回からは規模を拡大した文学賞になるという。この機会に、第１回から選考委員をつとめた者として、これまでの経緯をふりかえってみることにしたい。

びぶりお文学賞創設の契機になったのは、２００６年（平成１８年）に、琉球大学附属図書館が教養図書コーナー開設５周年を記念して、「読書論文コンクール」を企画したことであった。「コンクール」応募要領には、「私が影響を受けた本」をとり上げ、大学入学後に知的刺激を受けた本、ものの考え方や人生観に影響を受けた本などの読書体験を中心に書くこと、と書かれてあった。読んだ本が、自分にとってどのような意味を持つ本になったか、事象の見方・考え方等にどのように影響を与えてくれたか、それを具体的に、本の内容と自分を関わらせて、自らの言葉で書くことが応募者には求められていた。

応募数は予想をはるかに超えて３６編、２回にわたる選考委員会ではそれぞれの委員の意見が完全に一致することはなく、けっこう議論が長引いた。なによりも、コンクールの名称を「読書論文コンクール」としたせいか、応募者にはとまどったところがあったのかも知れない。つまり、エッセイなのか、読んだ書物に関する学術的なもの（論文の体裁を有する文章）なのか、要求されているものがかならずしも明瞭でないところがあった。実際、エッセイを書いてきた応募者もいたし、注をつけて学術的な論文として提出されたものもあった。選考委員会は、まずはどのような基準で選考するかを話し合わなければならなかった。

私は選考委員長を仰せつかっていたので、選考会の後で、選考にこれほど難渋するよりは、もっと別のかたちで「コンクール」を開催したらどうかと提案した。選考委員の一人に、当時まだ在職しておられた国文の仲程昌徳先生がおられたので、仲程先生と二人で、「読書論文コンクール」に代わって短編小説賞を創設することを提案した。そのさいに、琉球大学の学生たちによる多様な文学活動の伝統や、卒業生の中から又吉栄喜氏と目取真俊氏の二人が芥川賞を受賞し、崎山多美氏が芥川賞候補に二度ノミネートされたことも話題になった。つまり、琉大には、開学以来学生による豊かな文学の伝統があったが、それが１９８０年頃から途絶えているので、もう一度それを復活させようということで選考委員の思いが一致し、選考会を終わるときに図書館側に検討を要請したのであった。

仲程先生と私は、当時沖縄タイムス社の「新沖縄文学賞」の一次審査委員を長くつとめていて、（現在でもそうだが）沖縄の小説の書き手の平均年齢がかなり高く、２０代の応募者がほとんどいないという状況に危機感を覚えてい

た。このことも、琉大から若い書き手を送り出そう、そのためには短編小説賞を創設すべきではないだろうか、という提案につながったのだと思う。首里キャンパス時代は『琉大文学』をはじめとして、さまざまな文学活動があり、琉大の文学は沖縄社会に大きなインパクトを与える力を持っていた。現在でも、琉大の卒業生が沖縄の文学を牽引する大きな力になっていると言っても言い過ぎにはならないだろう。しかし、千原キャンパスに移転してからは、学生の文学活動が目に見えて衰退した。個人的な記憶になるが、大学祭などで、コピーされた作品を綴ったうすい冊子の「文集」が見られたのは、８０年代までであったか――。これは国文の学生たちを中心に出されていたようであるが、９０年代以降はほとんど見かけなくなった。個人として詩や小説を書いている学生がいたとしても、かつての『琉大文学』のような水準の高い同人誌が見られなくなり、学生が切磋琢磨する文学の課外活動が停滞してしまったのである。これは、７２年の復帰前後から既に始まっていたことなのかもしれない。

図書館は、文学賞を創設するという提案を受けてすぐに検討を開始したようで、翌２００７年（平成１９年）には第１回「琉球大学びぶりお文学賞」が創設された。図書館はこの文学賞創立の目的を次のように説明している――「『琉球大学びぶりお文学賞』は、琉球大学が基本目標として掲げる『地域及び広く社会に貢献する人材』『意欲と自己実現力を有する人材』育成の一環として、言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を高め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的に琉球大学に在学する学生を対象に（中略）設けられました」。文学で大学と地域社会に貢献するという高い志を簡潔に説明する文章である。

第1回募集ポスター

第1回選考会の様子

第１回の選考委員は、仲程昌徳（法文学部）、村上呂里（教育学部）、山里勝己（法文学部）で、図書館の担当者は松原敏夫氏（詩人・山之口貘賞受賞者）であった。最初の原稿締め切りは

平成１９年１０月であったが、応募者が少なく、１２月まで公募期間を延長した。学内にはポスターが貼られ、図書館のHPでも宣伝された。最終的には３１編の応募があった。これは予想外の数であった。松原さんが大喜びしたのはいうまでもない。１次選考は図書館が担当して１１編を選んだ。「琉球大学びぶりお文学賞」創設前後の図書館側の対応については、図書館報『びぶりお』１５０号（２００９年４月）に松原さんが詳細に報告しているので、これ以上は触れないことにするが、さまざまな困難を克服して琉大史上初の文学賞を創設した主管部局の図書館の熱意と創意に敬意を表したいと思う。

松原さんは、賞は創設したものの、果たして応募者いるかどうか、たいへん心配されて、選考委員からも学生に応募するように激励してもらいたいと連絡してきた。選考委員も、琉大には目に見えない文学の力が流れていると信じていても、いざ誰が書くのか、誰が応募してくれるのかと問われると、具体的に答えることができず、いささか心許ない思いをしたのも事実である。そこで私は当時担当していた「和文英訳」受講生（英文の３年次学生）の中で見込みがありそうな学生たちに声をかけることにした。この科目は、*The Japan Times* などの英字新聞や *Time* 誌などの記事、２，３のアメリカ短編小説の一節、そして短いアメリカ詩２，３編を日本語に翻訳し、パワーポイントを用いて訳されたものをクラス全員で合評するという形式の授業であった。「見込みがありそうな学生」というのは、安定した日本語を書く力があり、他の学生の模範になるような、こなれていて、想像力豊かな言葉の選択または組み合わせができる学生のことである。いわば、「文学的な」訳文を提出してきた学生のことで、２５名ほどのクラスに数人、そのような学生がいた。

私はこのような学生たちに声をかけ、「琉球大学びぶりお文学賞」に応募してみたらどうだろうと言ってみた。そうすると、小説など書いたことがない、どのように書けばいいのかわからない、と学生たちは口を揃えて言う。いや、あまりむつかしく考えることはない、要するに、「英文和訳」で短編小説を読んで日本語に訳しているので、あの要領で、もっと字数を増やして物語を書けばいいのではないか、と答えた。じつに曖昧模糊とした説明である。案の定、そう言われても、といった表情で学生たちは首を傾げた。選考委員としても、あまり多くのことは言うわけにはいかない。まあ、気楽に書きたいことを書けばいいのですと言って、私は逃げるように学生たちの前から立ち去った。立ち去る前に、ついでに受賞作と佳作に与えられる賞金についても話した。じつは「琉球大学びぶりお文学賞」は、賞金で言えば、県内最大の文学賞なのである。図書館の意気込みや志の高さを感じるのであるが、これは学生たちにとっては魅力的なものであり、よし、取ってやる！と思わせるには十分のものだ。

二次選考に残った作品を読みながら、私は琉大の学生や（学生たちが住む）沖縄の持つ文学の力や可能性に感銘を受けた。特に、受賞作の山原みどりさんの「青い海の目で」は、出身地の伊良部島の海と島に生きる人々を、大学生で

ある「私」の視点から叙情的に描いた美しい短編であった。島または場所の有する力が作品に満ちあふれていて優れた作品に仕上がっていた。授賞式で、村上呂里先生が、山原さんにおめでとうと言いながら、「想像していたとおりの人だ」とおっしゃったのが印象に残っている。私は学外の２つの文学賞の選考委員をしているが、この作品を学外の選考委員たちにも読んでもらった。すると異口同音に、これは優れた作品で、学外の文学賞に応募したとしても、かなり高い評価を受けただろうという感想が返ってきた。山原さんの短編は、「琉球大学びぶりお文学賞」の水準を示す指標になっていると思う。

第１回の受賞作と佳作は『発掘された琉大文学の水脈』いうタイトルで、冊子体でまとめられた。その際に、作品もさることながら、装丁の美しさも評判になった。教育学部の上村豊先生の手になる装丁は、落ち着きと気品のあるもので、「琉球大学びぶりお文学賞」の評価を高めるものになっている。この冊子は学外でも文学関係者の間で評判になった。いまでは毎年の装丁を見るのも楽しみの一つになっている。

第２回から村上先生と喜納育江准教授（当時）が選考委員を交代し、仲程先生の退職後は大城貞俊准教授（当時）が選考委員になった。第７回からは、新たな企画により、学外の選考委員が加わることになっている。

第１回～第５回までの受賞作品集

「琉球大学びぶりお文学賞」は、学外でも注目されるようになり、新聞の文芸時評でも取り上げられ、論じられるようになった。これまでの受賞作を読んでいても、それなりの水準を有する文学賞であることがわかる。同時に若い才能の台頭に期待する社会の熱いまなざしも感じる。受賞者には学外からの原稿依頼もあるという。沖縄の小説の書き手の平均年齢が高くなる中で、若い書き手の斬新な作品に対する社会の期待は大きい。「琉球大学びぶりお文学賞」が新しい書き手の登竜門となり、沖縄の文学の活性化にとどまらず、日本語で書かれる文学全体にインパクトを与えるものに大きく成長するよう期待したい。また、ここまでこの文学賞を育ててきた図書館のスタッフの情熱とご苦労に対して、心からの敬意を表したい。

（やまざと　かつのり：法文学部教授）

文芸ワークショップ「詩の寺子屋塾―詩を書いてみよう!―」を開催

今年で第６回となる琉球大学びぶりお文学賞関連企画として、１０月２３日、附属図書館多目的ホールにて「詩の寺子屋塾―詩を書いてみよう！―」を開催しました。

第１部は、詩・小説・戯曲などで県内外の文学賞を受賞している大城貞俊氏（教育学部教授）を講師に迎え、「詩の表現方法について」とする演題で、約1時間の講演が実施されました。

第２部は「想像力を使って詩を書いてみよう！」というタイトルで、実際に参加者に詩を書いてもらうワークショップを行いました。参加者たちは短い時間ながら熱心に取り組み、即興で書いた詩を朗読しました。学内外から参加があり、会場は大いに盛り上がりました。

Library Lovers' キャンペーンを開催しました

10月22日（月）～11月19日（月）に九州地区の大学図書館が合同で行う「Library Lovers' キャンペーン」を開催しました。当館で行った企画は、以下の通りです。

本で、旅する -九州文学地図 -（合同企画①）

九州にゆかりのある文学作品の紹介を募集し、地図を作り上げる企画。11件の投稿がありました。

★地図の完成版が、以下のページで公開されています。

http://libraryloverskyushu.blog.fc2.com/blog-entry-229.html

九州地区大学図書館貸出ランキング（合同企画②）

キャンペーン参加館全体の貸出ランキングトップ20と、本館の貸出ランキングトップ10を掲示。

図書館を使いこなそう！

図書館の利活用に関するクイズを配布。21名が挑戦しました。

40年前の今日は！？

所蔵する40年前の県内新聞を日替わりで展示。

迷子の本を探せ！

図書館内で不明になってしまった本を探す企画。
キャンペーン中1冊、終了後5冊、計6冊の本がみつかりました。

「ビブリオバトル in 琉大図書館」の様子

ビブリオバトル in 琉大図書館

おすすめの本の紹介（5分）とディスカッション（2～3分）を行い、最も読みたくなった本（チャンプ本）を決定するイベント。5人の学生がおすすめの本を紹介し、約30名が観覧に訪れました。

◆平成24年度琉球大学附属図書館貴重書展を開催しました。

附属図書館では、資料の公開や地域貢献の一環として、毎年、公共図書館と連携して貴重書展を開催しています。今年は、沖縄本島中部にある、うるま市立中央図書館で10月16日から24日の日程で開催しました。

今回は「文献資料に見る琉球・沖縄inうるま市」をテーマとして、本学所蔵資料の中から県指定文化財の『浦添家本伊勢物語』をはじめ、新収蔵資料や開催地のうるま市に関わる資料を中心に厳選した36点のほか、共催機関からの展示としてうるま市所蔵の県指定文化財1点を加えた37点の原資料、及び大正期から戦後の沖縄の風景を撮った写真パネル等55点が展示されました。さらに、関連イベントとして、10月20日(土)、高良倉吉氏(法文学部教授)による特別講演会「うるま市と琉球王国―勝連グスクを中心に」を開催し、220名の来場者で大いに賑わいました。後日、要望に応えて講演会を記録した映像の上映会を開催するほどの評判でした。また、10月18日(木)・19日(金)には、附属図書館とうるま市立中央図書館の職員によるギャラリートークも開催されました。期間中は、約1,500名の見学者が訪れ、その模様は地元のテレビや新聞でも紹介されました。見学者からは「貴重な資料が保管されていた驚きと、出会えたことに感動した」「地域の多くの人に見てもらいたい」「今後も継続して欲しい」といった感想・要望が多数寄せられました。

展示会の様子

また、この企画展の内容を期間中に見ることができなかった学内外の方を対象として、平成25年1月28日(月)～2月1日(金)の期間にリバイバル展「文献資料にみる琉球・沖縄～移民資料展～」を、附属図書館を会場に開催しました。

ギャラリートークの様子

講演会の様子

リバイバル展の様子

◆新収蔵資料紹介

①琉球処分関連文書

豊見城間切や小禄間切の巡回報告書である「嶋尻方巡回具状類」、松田道之によると思われる意見書や、主に原忠順に宛てたものと思われる意見書等、琉球処分期から明治１２～１３年頃の沖縄県政に関する資料９点（写本）です。沖縄県最初の県令である鍋島直彬と共に、廃藩置県後の沖縄県政に関った沖縄県少書記官原忠順宛ての意見書の中には「謹ミテ少書記官原公ノ閣下ニ白ス」と始められ、愛野静男や松山範治、俣野景孝といった人物を本庁庶務課へ任用することや、租税課の課長は老練の者を登用すること等、人事や沖縄県政に対しての意見を述べられた建議書も含まれています。

②「台湾大学出版コレクション」データベースの利用開始について

附属図書館では、iGroup社が提供している台湾大学のコレクションのデータベースを導入しました。

このデータベースでは、台湾大学図書館所蔵の『歴代宝案』をはじめ、琉球・沖縄研究において利用頻度の高い資料が多く収録されております。

資料は当館所蔵目録(OPAC)にて検索できる(検索結果は[電子ブック]タグにて表示)ほか、下記のURLよりアクセスできます（学内のみ）。 URL：http://portal.igpublish.com/

開館時間大幅延長のお知らせ（本館）

附属図書館（本館）では、開館時間の延長を求める声が学生を中心に多数あることから、平成25年度から開館時間を大幅に延長することとなりました。これまで開館時間が比較的短かった通常期の休日、夜間開館のなかった休業期平日、またこれまで閉館であった休業期休日についても通常の開館時間である8時30分～22時の開館となります。これにより、休館日（開学記念日、琉大祭、年末年始、センター試験日・入学試験日）を除くほぼ毎日、夜10時までご利用いただけるようになりました。また通常期の平日は、朝の開館時間を30分早めにして朝8時に開館する早朝開館を前年度から実施しています。併せてご利用ください。

■附属図書館本館

	これまでの開館時間	H25年度からの開館時間
通常期平日	8:00～22:00	変更なし
通常期休日	10:00～20:00	8:30～22:00
休業期平日	8:30～17:00	8:30～22:00
休業期休日	閉　館	8:30～22:00

膝掛け・クッション貸し出します！

図書館で快適に過ごせるように、膝掛けとクッションを貸し出しています。本館2階、入ってすぐの場所に写真のような感じで置いてありますので、長時間勉強したいとき、図書館の中が寒いときなど、いつでもご利用ください。利用の際に申し込み等は必要ありません。必要なときに持って行って、使い終わったら元の場所へ戻してください。

学生選書グループの活動

附属図書館では平成22年度から学生選書グループを立ち上げ、現在各部局から推薦された20名の学部学生、大学院生が活躍しています。今年度は7月と12月にグループ会議を開催、また、8月には選書ツアーを開催しました。

グループ会議では各人が図書館に対する意見、要望等を活発に出し合うことにより、図書館もその意見、要望等を踏まえ、より利用しやすい環境作りに役立っております。8月の選書ツアーには、11名の学生の参加があり約400冊の本を選書しました。

また、図書館が企画する各種イベントへも積極的に参加しています。今年第2回目の選書ツアーが2月13日に行われる予定です。

今回も学生の視点で選書した本が図書館の利用者に活用され、充実を図れることを願っています。

琉大リポジトリ7,000件突破！

琉球大学学術リポジトリの公開コンテンツ数が、平成２４年年１２月２５日に７，０００件を突破しました。当リポジトリは、平成１９年３月の試験公開、同年１１月の正式公開を経て、着実に登録件数を増やしてきました。今後も引き続き、琉球大学学術リポジトリの充実にご協力をお願いします。

琉球大学学術リポジトリ：http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp

第33回ＥＵｉセミナーを開催

１0月11日から２日間、琉球大学研究者交流施設・50周年記念会館を会場に、第33回EUiセミナーを開催しました。ＥＵ情報センターは、欧州委員会がＥＵ情報の提供のために設置されたもので、日本国内にはＥＵ情報センターが19館、寄託図書館が１館指定されています。

本セミナーは、国内のEU情報センターおよび寄託図書館が連携を深め、EUに関する図書館活動の向上・発展を図ることを目的として毎年開催しているもので、16大学等から17名の参加がありました。

1日目は駐日欧州連合代表部リチャード・ケルナー氏による「ＥＵ情報センターの役割・あり方」と題した講演の後、上智大学ヨーロッパ研究所の研究員による研究発表や各館のＥＵに関するレファレンス事例報告等が行われました。

2日目は、「The EU at a Turning Point - Past, Present and Possible Futures」（「転換期のEU―過去、現在、そして今後の行く先」）と題する琉球大学法文学部の金城宏幸教授、宮里厚子准教授、WEBER　TILL准教授の3氏による講演があり、スペイン・フランス・ドイツを中心に、経済問題や最新の情勢が英語と日本語で提供されました。また、EU情報センターの今後の活動に関して、提案や問題点なども挙げられ、大変有意義なセミナーとなりました。

講演するケルナー氏

セミナーの様子

◇図書館見学　平成24年10月～平成25年3月

	訪問日	見学者
1	１０月３日	茨城県立牛久栄進高等学校　２５名　図書館見学
2	１０月１７日	石川県立能登高等学校　４０名　沖縄史の講義および図書館見学
3	１１月７日	沖縄県立南風原高等学校　５３名　図書館見学
4	１１月９日	沖縄県立宜野座高等学校　２０名　図書館見学
5	１１月１３日	沖縄県立首里東高等学校　１５４名　図書館見学
6	２月２７日	沖縄県立那覇商業高等学校　１４名　図書館見学

◇本学所蔵資料が利用された報道・出版

分類	刊行・放送	内　容	資料名
掲載	平成24年8月	新垣信一譯(編)増補改訂琉球語讃美歌附箴言昭和五年版復刻会『増補改訂琉球語賛美歌附箴言』	「LOOCHOOAN MANUAL FOR CHRISTIAN WORKERS 琉球文基督教教役者必携」
掲載	平成24年10月	「雑誌モモト12月号」	「丑年御在番様招請之時膳符日記」(宮良殿内文庫No.92)
掲載	平成24年11月	梅崎晴光著『消えた琉球競馬 ： 幻の名馬「ヒコーキ」を追いかけて』(ボーダーインク)	ブール文庫ガラス板写真より「No.16 Loo Chooan Farmer and Saddle Pony（琉球の農夫と乗用馬)」
掲載	平成24年11月	字神山郷友会神山誌編纂委員会(編)『字神山誌』(字神山郷友会)	『明治期琉球写真帳』より「闘牛」 『Bull文庫ガラス乾板写真』より「闘牛」
展示	平成24年11月1日～25日	「うるま市立石川歴史民俗資料館における遺跡発掘調査速報展　-掘り出されたうるま市の遺跡-」での展示	①『明治琉球写真帳』より「勝連城」 ②『Bull文庫ガラス乾板写真』より「No.17 Sugar Mill in LooChooan Village」 ③絵葉書「沖縄風景 製糖所」

お知らせ　2013年度 開館カレンダー

■本館

開館時間　通常期：月～金［黒］(Black) 8:00～22:00　　休館［赤］(Close)
土・日・祝日・休業期［青］(Blue) 8:30～22:00

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

■医学部分館

開館時間　通常期：月～金［黒］(Black) 8:00～22:00　　休館［赤］(Close)
土・日・祝日・休業期［青］(Blue) 8:30～22:00

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月

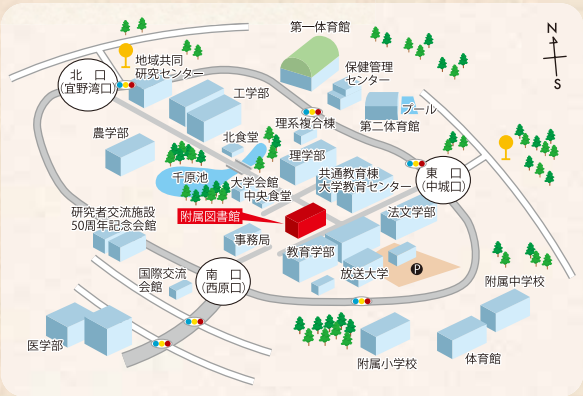
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

平成25年度 新入生オリエンテーション案内

図書館では、新入生のための図書館オリエンテーションを行います。充実した大学生活を送るために、図書館の活用法をガイドしますので、ぜひご参加ください！

【開催日】
4月2日(火)～12日(金)の平日
【開催時間】
(午前)12:15～12:45　(午後)16:30～17:00
【集合場所】
附属図書館本館２階カウンター前
【内　容】
図書館ツアー

予約等は必要ありません。　3分前に集合してください。
問い合わせ先 ▶　情報リテラシー係 (Tel：098-895-8168)



【奥付】
琉球大学附属図書館報「びぶりお」第46第1号（通巻第158号）
発行日：2013年（平成25年）4月1日
発行：琉球大学附属図書館　　編集：びぶりお編集委員会

〒903－0214 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL：098－895－8167
E-Mail：kikaku@lib.u-ryukyu.ac.jp